

## つながりあえる人と地域

保護司 大仁田 富美子

16年前、私に自治会長より保護司就任へのお誘いがありました。保護司とは、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないように立ち直りを、地域で支える民間ボランティアです。そんな仕事が私にできるのかと悩みましたが、少しでも人のお役に立てればいいと決意し、平成20年11月より保護司として活動がはじまりました。

最初の10年は毎年、自分の子供より若い人を担当しました。面接の際、私も対象者も緊張していましたが、回を重ねるごとに学校のこと友達のことなどいろんな話をしてくれるようになり、まるで近所のおばちゃんのような存在になっていました。皆さんとても「いい子」なのに、なぜ罪を犯したのかと不思議に思う事もありました。窃盗や交通違反など、スリルを感じたい、皆でやれば怖くない、イライラしてストレス解消の為とか、一人一人、心に複雑なものをかかえていました。罪を犯した事の重大さ、社会のルールや約束を守る事など、社会生活での善・悪についても話し合いました。そして、将来ある少年少女が夢をもって希望ある人生を歩んでもらえるように願ってきました。

「犯罪・非行に至る過程において、家族関係が少なからず、その要因・背景になっており対象者の多くは家族と同居している。したがって対象者の家族への働きかけは、非常に重要な位置付けにある」と本で読んだことがあります。私も面接を続ける中で家庭環境の大切さを痛感しました。私も3ヶ月に一回の往訪の際、家族の方と会えるよう努力してきました。訪問すると対象者は、いつもの様子とちがいます。思春期という難しい時期であり、何かに悩み迷っています。その声に耳を傾け、ホッとしてもらい、人生のアドバイスができる関係を築いていけるように今後も努力して参ります。

「誰一人取り残さない社会」に向けて、家庭・地域社会がつながる事が一番大切であり、再犯防止への予防活動につながっていくと信じています。

## 保護司になりませんか

現在、伊賀市保護司会の会員数は45名です。この数は伊賀市の保護司の定数を満たしていません。保護司は旧小学校区などで分けた地域から1名以上の保護司が選ばれます。保護司には定年があり、後任を決めなければなりません、なかなかない方だけの方が見つからず、現在、保護司のいない地域があります。犯罪件数は減少していますが再犯率は高くなってきています。再び罪を犯さないためにも、保護司の活動は大切になってきます。犯罪・非行のない地域を作るためには、地域住民の協力が大切になってきます。どうか保護司の活動をご理解いただき、ご協力お願いします。

# 令和6年度保護司会活動報告

伊賀市内の保護司で組織する伊賀保護司会では、本年度、保護司の資質を高める定例研修会を実施したり、名張保護司会との合同研修会では、更生保護の父といわれる金原明善氏について講師の田辺一邑氏にご講演いただいたり、視察研修旅行として兵庫県加古川市にある播磨社会復帰促進センターなどを訪問したりして、日々、研鑽を重ねています。また、『社会を明るくする運動』への協力、教育の現場の様子を知るための中学校訪問を行うなど、犯罪・非行を防止し、罪を犯した人たちの立ち直りを助ける地域づくりにも取り組んでいます。また、更生保護に関わる更生保護女性の会・BBS・協力雇用主などの団体との交流を行ってきました。



総会・定期研修会



社会を明るくする運動



名張保護司会との合同研修会



中学校訪問（霊峰中・柘植中）



中学校訪問（城東中）



視察研修旅行



※伊賀保護司会では、犯罪や非行をした人を雇用し、立ち直りを助ける「協力雇用主」を募集しています。